

---

# 文字のない本

issei

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】  
文字のない本

【コード】  
N1325K

【作者名】  
i s s e i

【あらすじ】  
秘密の魔法がかけられた、原っぱでの物語。

花束の物語を贈ろうと思ったのだ。

空がこんなにも青く透き通って見えるこの原っぱに咲く蒲公英。

僕と君はこの場所を訪れるたびに笑い合い、助け合い、時には喧嘩もしたね。

君は感じていたかな、この原っぱにかけられた秘密の魔法を。

柔らかい風に誘われ唄う蒲公英には、僕と君が紡いできた幾千という恋の物語が描かれているのだ。

いつか、この場所一面が僕と君の物語で紡がれた蒲公英で優しく包まれた時、僕は君にこの花束の物語を贈るつもりだったのだ。

この場所に咲く蒲公英、その一輪一輪に描かれた優しさや温もり、強さが織りなす色とりどりの僕と君の恋が綴られた物語を語り明かす、そんなこれからの日々を僕は思い描いていたのだ。

だけれど、ここ数年は違ったみたいだ。

秘密の魔法がかけられたこの場所で僕は君を想い、涙を流すだけになっちゃった。

しかし、感じたのだ。

秘密の魔法がかけられたこの原っぱに咲く蒲公英が雨に打たれながらも、静かに空を見上げ続けている姿を見たときに。

ありきたりの表現かもしれないが君が怒っている、と。

僕は忘れていた。

この場所で風とともに艶やかに唄う蒲公英には、描かれていたのだ。僕と君が描き続けてきた物語が消えることなく、その一輪一輪に文字のない本となって。

だから、僕はこれから描き続けるよ。

いつか君に贈る花束の物語を、悲しい物語にはしたくないから。

だって、この場所に寝転んで見渡せば君が笑っている、ほら、君が唄っている。

青く透き通る空を見上げれば、君がいる場所にまで届きそうな冠毛  
たちが風と共に舞い踊っている。

いつか君に、もう一度会いにいくよ。

僕と君の秘密の魔法がかけられた、両手では抱えきれない程の花束  
の物語を持って。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1325k/>

---

文字のない本

2011年1月16日06時54分発行